創建年代は定かではありませんが開山は相誉上人 (開祖) の没年などから慶長から文禄年間と推定され約400年の歴史があるお寺です。総本山は知恩院 (京都)、大本山は芝増上寺(東京)で徳川将軍家の位牌が安置されているし、当地はお江の方のお化粧領地でもあった。ご本尊は阿弥陀如来坐像(丈三尺一寸)で、観音、勢至菩薩両脇侍ともに元禄年間の作だと言われています。その他、諸尊像として法然善導両大師像、なで仏として有名な賓頭盧尊者像、丈二尺七寸五分の大閻魔像、十一面観音像などがあります。特に、十一面観音像は平安時代の仏師定朝の作と言われ秘仏となっていますが、毎年正月にご開帳しております。また、本寺は本堂裏手からの湧水を使った水琴窟が設置されていて和ませてくれます。(境内説明版、パンフレット)



道路から直ぐに参道



六阿弥陀のいわれの説明版



山門を潜ると六地蔵がいる



参道脇に六阿弥陀の石碑がある



山門



本寺で有名な水琴窟





本殿 本殿の上の彫刻



参道には多くの花々の手入れがされていた



